「コウノトリからの手紙」を意味する造語です　※コウノトリの学名「キコニア・ボイキアナ」

キコニアレター

2021.1.1 発行　No.25

コウノトリ野生復帰グランドデザインの達成に向けて
～短期目標の実現へ～

兵庫県立コウノトリの郷公園
園長　江崎　保男（EZAKI Yasuo）

郷公園が2005年に再導入（放鳥）を開始して以来、野外コウノトリは着実にその数を増やし、2020年6月には200羽に達しました。またこの15年間に、兵庫県を含む西日本6府県での野外繁殖の開始と継続、東日本では唯一となる栃木県での繁殖成功、国内で巣立った幼鳥の韓国・中国への移動など、兵庫県から始まった取組は、国内だけでなく極東に大きく拡がっています。多くの皆さまのご支援により、野生復帰が着実に進展していることに、心より感謝致します。

さて、コウノトリ野生復帰の未来設計図として、2011年に策定した「野生復帰グランドデザイン」では、「コウノトリが普通種になること」をゴールと位置づけ、それを実現させるための短期目標・中期目標を定めています。なかでも短期目標「安定した真の野生個体群の確立」実現のための8つの方策のうちの要となる「給餌からの段階的脱出」については、昨秋、新たな取組を始めました。

郷公園では、ご来園の皆さまにコウノトリへの理解を深めて頂くことを目的として、1999年の開園以来、飼育個体を公開ケージで生態展示してきました。自然に近い状態でコウノトリが暮らす様子を再現するため、ここには湿地や草地をつくり、屋根を設けませんでした。

しかしこの構造は、公開ケージでの給餌時間になると現れて、飼育個体の餌を横取りする野外個体の出現をもたらしました。中には一日中、郷公園付近で暮らす「給餌依存」状態の鳥さえ見受けられるようになりました。これらの個体は、たとえ野外で暮らしていても、真の野生個体とは言えません。

これまで給餌時間の変更などを試みてきましたが、根本的な解決には至りませんでした。そこで今回、公開ケージでの給餌を屋根付ヤード内で行う方式に変更することになった次第です。

餌を求めて飛来する野外個体がいなくなって「寂しくなった」「群舞が見られなくなった」などの声も寄せられていますが、鳥インフルエンザの脅威にさらされている昨今、野外個体が飼育個体と接触する機会は極力減らす必要に迫られています。郷公園周辺には、祥雲寺巣塔ペアや大陸から飛来した野生個体が暮らしています。ビオトープの改良により餌場の生産力増大に努めてまいりますので、今後は野生コウノトリの真の姿をご覧いただけるようになると考えています。むろん、公開ケージでの生態展示も継続してまいります。

短期目標「安定した真の野生個体群の確立」に向けての少々大胆な試みですが、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

コウノトリの個体数（2020.12.15時点）

飼育

施設・拠点名	オス	メス	不明	計
兵庫県立コウノトリの郷公園	29	31	0	60
附属飼育施設コウノトリ保護増殖センター	18	17	0	35
養父市伊佐拠点	0	0	0	0
朝来市三保拠点	0	0	0	0
計	47	48	0	95

野外

カテゴリー	オス	メス	不明	計
兵庫県放鳥	18	15	0	33
兵庫県野外巣立ち	49	71	0	120
野生個体	0	1	0	1
他府県放鳥	12	5	0	17
他府県野外巣立ち等	19	26	3	48
計	98	118	3	219

兵庫県立コウノトリの郷公園
Hyogo Park of the Oriental White Stork

02教Ⓟ2-013A4

人為的要因によるコウノトリの事故を防ぐための取り組み

兵庫県立コウノトリの郷公園
獣医師
MATSUMOTO Rei
松本　令以

コウノトリの野外個体が100羽を超えた2017年、私は、2005年の再導入開始以降に救護または死体収容されたコウノトリについてのデータを集計し、当レターNo.13（2017年11月15日発行）に「コウノトリにとって安心安全とは？」という記事を書きました。あれから3年、コウノトリの野外個体は200羽を超えましたが、2020年11月末までに救護・死体収容されたコウノトリはのべ147羽にのぼり、うち64羽（43.5％）が、防獣ネット、電気通信設備、猟具など、人為的要因によるものです。今回は、それらによる事故を防ぐための取り組みについて紹介したいと思います。

これまでに23羽が防獣ネットや防鳥用テグス等に絡まって救護されています。絡まった状態で死亡していたものも6羽います。育雛中の親鳥が救護されたこともあります。田畑のまわりに張られた防獣ネットは、コウノトリにとって大きな脅威になっています。そこで、最も事故件数の多い豊岡市内での対策として、豊岡市コウノトリ共生課と連携し、コウノトリの繁殖期が始まる頃に市内の農家向けに啓発チラシを配布してもらい、「不要なネットの撤去」「目印となるテープの取り付け」などを住民に呼び掛けています。

防獣ネットに絡まって救護されたコウノトリ（育雛中の親鳥）

電線や送電線での事故への対策は、電力会社と協力しながら行っていく必要があります。2019年、豊岡市内の人工巣塔を巣立ったコウノトリが、巣塔近くの送電線鉄塔で感電死する事故が起きました。鉄塔の最上部に止まっても感電はしませんが、中間部分に止まり、送電線やその近くの部材に触れてしまうと感電します。再発を防ぐため電力会社に協力を要請し、感電死が起きた鉄塔の中間部分に鳥よけの資材を取り付けて頂きました。

コウノトリがトラバサミにかかって負傷する事故は2件発生しています（2016年・京都府京丹後市、2019年・豊岡市）。トラバサミは、以前は狩猟用のわなとして使用されていましたが、無差別に動物を殺傷し危険性が高いことから、2007年から猟具としての使用は禁止されています。現在も販売はされていますが、合法的に使用できる状況は極めて限られています。もちろん、コウノトリを殺傷した場合は違法になります。2019年の事故の後、豊岡市コウノトリ共生課とともに豊岡市内の販売店を訪問し、購入にあたって県や市の担当部署に相談できるよう、商品のそばに掲示をして頂きました。

トラバサミをぶら下げて巣に戻ってきたコウノトリの幼鳥

コウノトリの個体数が増え、繁殖地が全国に広がり、人とコウノトリが共生できる地域社会づくりに向けた活動も全国に広がりつつあります。しかし、それとともに、人為的要因による事故も全国各地で発生しています。事故を防ぐための取り組みも、兵庫県や豊岡市を起点にして全国に広がっていくことを願っています。

新型コロナ感染症の流行に振り回された昨年。新年を迎えても、状況はなお予断を許さない。

生活様式をはじめ大きな変化を余儀なくされても、真理の探求は不変である。院生研究室で夜遅くまで机に向かう学生の姿を再びみかけるようになった。できることをひとつひとつこなす小さな営みが、どうか豊かな実を結ばんことを。

新しき年のはじめの初春の今日降る雪のいや重け吉事

（『万葉集』、大伴家持）

（望鶴生）

No.21

RRM［コラム］column

コウノトリ野生復帰の舞台裏

コウノトリの野生復帰事業を支えている飼育業務ですが、どんな舞台裏なのかご存じない方が多いと思います。そこで今回と次回の２回にわたってご紹介することとし、今回は非公開エリアにある様々なケージについて取り上げます。

↙読み方は「じゅんか」です　読めました？

馴化ケージ

放鳥する個体に野外生活で必要な能力を向上させるためのケージです。コウノトリはケージの中央を流れる小川でエサを採ったり、羽ばたいたりできます。放鳥前の訓練だけでなく、飼育個体の集団ペアリング（お見合い）をするために使用することもあります。大きさは、幅25m×奥行25m×高さ５mです。

繁殖ケージ

箱型

繁殖やペアリングをするためのケージです。大きさは、幅13m×奥行６m×高さ４mで、ケージの真ん中をナイロンネットで仕切って２室に分けることができます。コウノトリは、相性の合わない雌雄を同居させると、一方が攻撃してケガを負わせたり、死亡させたりすることがあります。そのため、まず仕切った状態で雌雄をケージ内に入れます。ネット越しに求愛のクラッタリングをするなど、ペア成立が見込まれる場合には、ネットを上げて同居させます。非公開エリアに７基あります。

ドーム型

半球状のドーム型ケージは、コウノトリが飛翔するのに適していることから､｢フライングケージ｣と呼ばれています。大きさは、直径16m×高さ４mです。箱型ケージだとヒナを育てるには手狭なため､成立したペアをこのケージで飼育することが多いです。非公開エリアに３基あります。

個体ケージ

１室に１羽のコウノトリを飼育しています。郷公園には３基あり、飼育室は全部で28室あります。１室の大きさは、幅５m×奥行６m×高さ４mです。

オープンケージ

もともとは天井のないケージでしたが、放鳥個体の飛行訓練をより大きな場所で行うために、網状の天井を設ける改修をしました。大きさは、幅24m×奥行40m×高さ６mあり、非公開エリア内では、最も大きいケージです。

INFORMATION

新デザインポスターが完成しました!!

ポスターに使用した写真は、「第15回コウノトリ写真コンクール」で最優秀賞を獲得した二位岡野さんの『こうのとり正月御挨拶』です。多くのコウノトリとカモが共存する様子からは、自然が豊かであることを感じます。また、キャッチコピーの「次は どこへ 行こうか。」は、コウノトリが兵庫県を飛び出して、様々な土地に羽ばたこうとする思いを表しています。野外コウノトリが200羽に到達し、繁殖地や飛来地が大きく拡大している昨今の状況にふさわしいポスターとなりました。

ふるさとひょうご寄附金で コウノトリ野生復帰プロジェクトを応援してください。

全国の皆さまのご協力を得ながらコウノトリの保護増殖と野生復帰に取り組んできました。しかし、まだ道半ばの状態です。特に昨今では飛来地や繁殖地が全国的に拡大したことで、郷公園の技術的支援の必要性が高まっています。また、野外コウノトリの増加に伴い、救護個体の増加や近親婚の発生など新たな課題への対応が求められています。他にも、遺伝的な多様性確保のための国内外の施設とのさらなる連携が重要となってきています。

これらの取組を進めていくためにも本プロジェクトにご賛同いただき、ご支援をお願いいたします。本プロジェクトの詳しい内容は、郷公園HPにも掲載しています。

＜申し込み方法＞

1．ふるさと納税サイト「ふるさとチョイス」による申し込み

2．寄附申出書による申し込み

ふるさとチョイス　寄附申出書

＜特典例＞

・郷公園情報誌「キコニアレター」の定期送付（寄付をした翌年度の３月まで）

・郷公園オリジナルグッズの進呈（１万円以上の寄附、兵庫県外在住者のみ）

・飼育コウノトリへの３年間の命名権（30万円以上の寄附、先着順５名まで）

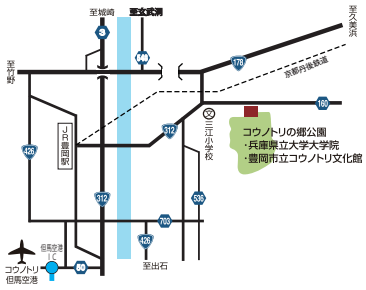
何かご不明な点がございましたら、郷公園までお気軽にお問い合わせください。

ACCESS！

◎神戸から［約２時間10分］
　姫路から［約１時間45分］
　最寄り 但馬空港ＩＣから20分

◎ＪＲ山陰本線「豊岡駅」から約4.5km
　全但バス（コウノトリの郷公園・法花寺・下の宮行き）

◎コウノトリ但馬空港から約12km



編集後記

10月と11月は小学校の環境学習の受け入れが多く、たくさんの小学生に来園いただきました。環境学習では、野生復帰に関するレクチャーや園内ガイド、生き物調査などを行いました。児童の皆さんは、メモを取りながら熱心に話を聞き、たくさんの質問をしてくれました。この学習を通じて、少しでも自然を身近に感じて様々な生き物のことを知っていただけたらと思います。

さて、今年は高病原性鳥インフルエンザが10月末から日本各地で確認されています。郷公園では、対策として車両・靴底の消毒を行っており、ご来園の皆さまにもご協力をお願いしています。新型コロナウイルスも、鳥インフルエンザも、早く終息してくれるようにと願うばかりです。

（自然解説員　箸中　彩夏）

兵庫県立コウノトリの郷公園
Hyogo Park of the Oriental White Stork
兵庫県豊岡市祥雲寺字二ヶ谷 128　tel：0796-23-5666　fax：0796-23-6538

開園時間：９：００～１７：００
休 園 日：毎週月曜日
（休日に当たるときはその翌日）
12月28日～1月4日

e-mail：kounotori@stork.u-hyogo.ac.jp
ホームページ：http://www.stork.u-hyogo.ac.jp
facebookページ：https://www.facebook.com/satokouen/

HP　FB